

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分
感染性胃腸炎検出状況

検出菌 ウイルス	2024年											2025年									
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	3月	4月	5月	6月 ～1日	6月 ～8日	6月 ～15日	6月 ～22日	6月 ～29日
カンピロバクター	38	25	57	50	39	41	50	50	37	36		18	14	38	22	23	5	6	9	9 (10)	5
病原性大腸菌	105	92	79	76	83	70	86	49	46	33		23	107	90	91	71	15	20	15	23 (24)	18
腸管出血性大腸菌	1	0	1	2	1	6	2	0	1	1		0	0	1	0	2	1	1	0	1	0
サルモネラ	2	7	5	8	12	29	13	12	7	6		1	3	8	3	6	2	1	1	2 (6)	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	16	4	12	21	11	17	24	5	6	4		14	15	6	8	9	0	5	4	4	3
黄色ブドウ球菌 MRSA	12	6	3	10	8	6	21	12	8	13		9	9	14	13	9	2	1	5	1	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	3	1	5	1	2	0	1		0	3	2	1	1	0	0	0	0	1*
ロタウイルス	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0		2	8	9	10	1	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0		1	3	4	4	2	0	0	0	0	1
ノロウイルス	10	3	4	0	1	1	1	0	0	0		0	11	37	10	6	1	0	0	1	0

()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

*その他は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC)
感染症週報 令和7年第26週(6月23日～6月29日)

2. 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類 別	報告数	疾 患 名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一 類	0	発生なし	0							
二 類	6	結核	6			3		3		
三 類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4	1				1		2
四 類	2	日本紅斑熱	1			1				
		レジオネラ症	1						1	
五 類	151	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2					1		1
		後天性免疫不全症候群	1						1	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	1							1
		侵襲性肺炎球菌感染症	1		1					
		梅毒	3					2		1
		百日咳	143	14	34	18		55	5	17

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

週報③

広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター 広島市感染症週報

令和 7年26週(6月23日～6月29日)

■コメント

1 百日咳

55件の報告があり、増加が続いています。乳児は重症化リスクが高く、特に注意が必要です。予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

2 伝染性紅斑

定点当たり4.32人と、多い状況が続いています。

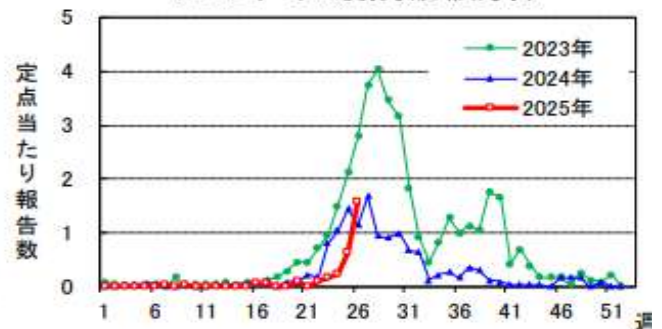
3 ヘルパンギーナ

定点当たり1.59人の報告があり、増加しています。発熱とともに、喉に痛みと水疱が現れる「夏かぜ」の一種で、感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

4 流行性角結膜炎

定点当たり2.00人と、多い状況が続いています。アデノウイルスを原因とする急性の結膜炎で、感染力が強く、小児から大人まで幅広い年齢層で見られます。手洗いの励行、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

ヘルパンギーナの流行状況(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1979	56.54			→	小児科	突発性発しん	4	0.18	0.36		
	インフルエンザ	7	0.20	0.22		↓		ヘルパンギーナ	35	1.59	0.89		↑
	新型コロナ(COVID-19)	24	0.69			→		流行性耳下腺炎	3	0.14	0.12		
小児科	RSウイルス感染症	3	0.14	1.39		→	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		
	咽頭結膜熱	20	0.91	0.46		→		流行性角結膜炎	16	2.00	0.35		→
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	65	2.95	1.36		→	基幹	細菌性髄膜炎	1	0.17	-		
	感染性胃腸炎	145	6.59	3.93		→		無菌性髄膜炎	1	0.17	0.03		
	水痘	2	0.09	0.14		→		マイコプラズマ肺炎	7	1.17	0.11		
	手足口病	23	1.05	3.76		→		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	伝染性紅斑	95	4.32	0.03		→		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.17	-		

急増減 ↑ 前週と比較しておおむね1:2以上の増減

増減 → 前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減

微増減 ⇐ 前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI) 定点数(内科・小児科)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	63	20歳代・推定感染地域: 国外、30歳代・推定感染地域: 国外、80歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	1	14	80歳代・O157
5	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	14	80歳代
5	梅毒	2	70	30歳代・2人
5	百日咳	55	475	10歳未満・10人、10歳代・34人、20歳代・1人、30歳代・5人、40歳代・3人、50歳代・1人、60歳代・1人